

鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの事故について

概要

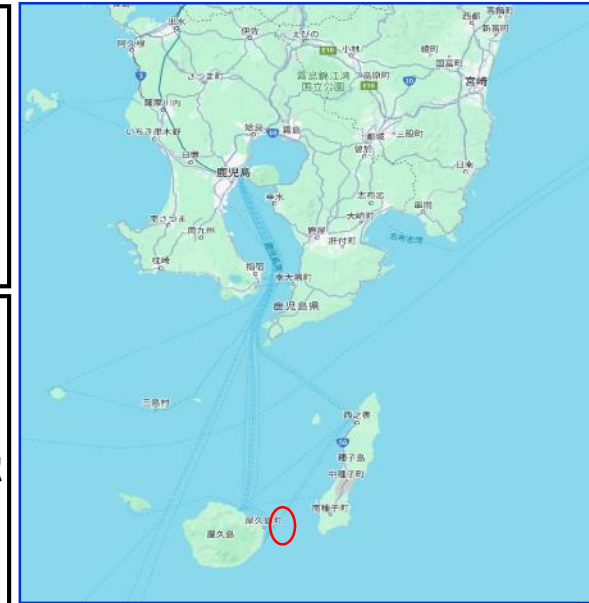
- 令和5年11月29日1440頃
- 鹿児島県屋久島東側の沖合にて、訓練中の米空軍横田基地所属のCV-22オスプレイ1機が墜落
- 乗員は8名(うち1名(横田基地第363情報・監視・偵察航空団所属)は死亡を確認、また、要救助者と見られる5名が発見されており、うち2名が収容された)
- 飛行経路は岩国基地～嘉手納基地

現地における自衛隊及び海上保安庁の対応

- 11月29日 1447頃、海上保安庁第十管区海上保安本部が巡視船・航空機を発動
- 11月29日 1458以降、陸海空自衛隊の航空機等が捜索救難活動を開始
- 11月29日 1600頃、十管区所属の回転翼機が現場海域に到着し、機体の残骸等を確認
- 11月30日 松本防衛大臣政務官が屋久島町長、屋久島漁業組合長、鹿児島県知事を往訪し、お詫び及び事故の説明を実施
- ※その他、現地調整所において必要な調整を実施
- ※米軍は、空母カール・ヴィンソンとその航空団、ダイバー、無人機及び捜索救助専門家が含まれる救難部隊を派遣し、航空、海中、海上及び沿岸で捜索救助

日米の主なやりとり

- 11月30日 大和防衛省地方協力局長⇒ラップ在日米軍司令官
- 11月30日 上川外務大臣⇒エマニュエル駐日米国大使
- 11月30日 木原防衛大臣⇒ラップ在日米軍司令官へ要請
国内に配備されたオスプレイについて、捜索救助活動を除き、飛行にかかる安全が確認されてから、飛行を行うよう要請するとともに早期の情報提供を求めた
- 12月1日 米側からの説明
 - ・ CV-22の飛行を行っていない
 - ・ 日本に配備されている全てのオスプレイは、徹底的かつ慎重な整備と安全点検を行った上で運用
 - ・ 事故に関する可能な限り詳細な情報を透明性をもって共有
- ※陸自オスプレイは、事故の状況が明らかになるまでの当面の間、飛行を見合わせる
こととしている



(出典：米国防総省HP)

全幅	25.8m
全長	17.4m
全高	6.73m
最大離陸重量	約24,000kg
最大巡航速度	約446km/h
乗務員+搭乗者数	4名+24名

(出典：米空軍ファクトシート)

鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの搜索活動について

令和5年12月4日
防衛省

<p>概要</p>	<p>○ 令和5年11月29日（水）1440頃、鹿児島県屋久島沖の洋上において、在日米軍所属のオスプレイが墜落した旨の通報あり。</p> <p>○ オスプレイの乗組員が行方不明となっていることから、29日（水）1458以降、自衛隊の航空機、艦艇、地上部隊が活動中。</p>
<p>活動部隊</p>	<p>○ 陸上自衛隊第8師団司令部（北熊本）、第42即応機動連隊（北熊本）、第12普通科連隊（国分）、西部方面航空隊（高遊原）</p> <p>○ 海上自衛隊第1航空群（鹿屋）、第212教育航空隊（鹿屋）、第22航空群（大村）、第8護衛隊（佐世保）、第12護衛隊（呉）、第13護衛隊（佐世保）、第1掃海隊（横須賀）、第2掃海隊（佐世保）、第3掃海隊（呉）、第43掃海隊（下関）、佐世保警備隊（佐世保）</p> <p>○ 航空自衛隊西部航空方面隊（春日）、新田原救難隊（新田原）、第603飛行隊（那覇）</p>
<p>連絡調整所</p>	<p>【現地連絡調整所（旧屋久島町役場）】</p> <p>内部部局（地方協力局）、統合幕僚監部、九州・沖縄防衛局及び各部隊の連絡員による関係機関との調整等を実施</p>
<p>活動実績</p> <p>【自衛隊】</p> <p>○ これまでに、海自艦艇により機体の一部らしきもの及び救命いかだ等を揚収</p> <p>○ 4日(月)1100時点の活動実績</p> <p><回転翼> SH-60K×2機</p> <p><固定翼> U-125A×1機</p> <p><艦艇6隻></p> <ul style="list-style-type: none"> ・護衛艦 「とね」、「のしろ」、「きりさめ」 ・掃海母艦「うらが」 ・掃海艇 「みやじま」、「とよしま」 <p><地上部隊> 人員約110名、ドローン×1機</p> <p>【海上保安庁】</p> <p>○ 4日(月)1100時点の活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡視船艇×2隻、航空機×1機 ・潜水士等が水中搜索を実施 	

※ 数値等は全て速報値のため、今後変更される可能性があります。